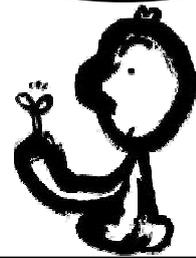


しみん基金・KOBÉ NEWS

第19号

2009年7月発行



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203(サンピア2F)

TEL 078-230-9774 FAX 078-230-9786

e-mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

しみん基金・KOBÉの公開審査会に参加して



冷や汗をかく思いでした。しみん基金・KOBÉ主催の公開審査会に審査員として初めて参加した時の正直な感想です。2007年10月31日、場所は神戸市中央区のコミスタこうべ(市生涯学習支援センター)。私はその月の初めに神戸支局長に着任したばかりでしたが、黒田裕子理事長にお誘いを受け、お引き受けしたのです。

事前の取材で概略は承知していました。しみん基金・KOBÉは阪神大震災をきっかけに生まれたNPO法人で、阪神間を中心にした市民活動を財政的に支援している。具体的な活動は、市民や企業などから集めた寄付金をボランティア団体などに助成金として配分することです。市民が市民をサポートするユニークな活動ですね。さらにユニークだと思ったのは、助成先を決める審査の方法です。書類審査を通過した約20団体を審査会場に招き、審査員を前にプレゼンテーションをしてもらう。そして、審査員はそれらの団体が見ている前で、どの団体が助成先にふさわしいかを投票で決めるというのです。

当日の公開審査会には22団体が参加しました。審査員は私を含め10人。大学教授、弁護士、社会福祉関係者など職業はさまざまです。助成金の総額は250万円。団体数が多いため、1団体に与えられるプレゼンテーションの時間はわずか5分。審査員による質問の時間も1団体につき2分しかありません。どの団体も資金力に乏しく、何とか助成金を獲得しようと必死になって助成の必要性を訴えます。一方、審査員にかかる重圧も相当なものです。250万円をどう分配しても、助成が受けられるのは10団体前後。半数以上を落選させるわけですから、悠長な質問はできません。「本当に継続性のある活動なのか」「一握りの人だけが恩恵にあずかる活動ではないのか」。私もつい歯に衣着せぬ質問を発していました。「真剣勝負」という言葉がふと頭に浮かんだほどです。最後に各団体名が書かれたホワイトボードに投票シールを張りました。22団体の関係者の祈るような視線を背中に感じながら、です。結局、助成を受けられたのは9団体でした。

昨年10月23日に開かれた審査会の雰囲気も全く同じでした。団体側も審査側もこれほど疲れる審査会はないでしょう。同時に、これほど公正な審査手法もないと改めて感じました。それに、審査会には大きな副産物があります。審査会場がさまざまなジャンルの団体の情報交換の場になることです。たとえ助成は受けられなくとも、情報やノウハウを共有できる団体間のネットワークが築ければ、それは貴重な財産となるはずです。私自身、過去2回の参加で多くの福祉や行政、大学の関係者と知り合いになることができました。

今年の審査会もやはり「真剣勝負」になるでしょう。同時に、多くの人たちの「出会いの場」にもなることを願っています。

毎日新聞神戸支局長 北川創一郎

主な目次

- | | | | |
|-----------------------|---|----------------------------------|---|
| ◆ 平成21年度定時総会報告----- | 2 | ◆ ぼたんの会夜会7のご報告----- | 4 |
| ◆ 10周年記念事業のご紹介----- | 3 | ◆ コラム「市民社会を支えるお金の流れを考える」(5)----- | 5 |
| ◆ 平成21年度助成事業のご案内----- | 3 | ◆ 14年目のひとり言----- | 6 |

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ 平成21年度定時総会報告

去る 5 月 27 日(水)17:00 より当基金事務所に於て平成 21 年度定時総会を開催し、平成 20 年度事業報告並びに決算報告、平成 21 年度事業計画並びに予算計画、基本財産の取り崩しについて、出席正会員数 25 名(委任状 15 名を含む、正会員総数 44 名)で審議し承認されました。概要は以下のとおりです。

平成 20 年度事業報告並びに決算報告

昨年度は、高野山真言宗をはじめ 26 の個人または団体より、総額: ¥6,427,727 の寄付・募金を頂きました。

皆様のあたたかいお志に心より感謝申し上げます。イベント募金として、例年通りぼたんの会(夜会、及び 1・17メモリアルコンサート)の実施に加えて、8 年ぶりにこうべ - ウォークを協働で開催しました。

昨年度のしみん基金 K O B E 助成事業は、高野山真言宗「共利群生活動支援基金」からの寄付金に基づき実施し、最終的には 18 団体に 376.5 万円の助成金を交付しました。

平成 20 年度収支決算(概要)

< 経常収支の部 >	
【経常収入】	8,236,426
事業収入	800,000
会費収入	778,000
寄付金・募金収入	6,427,727
その他の収入	230,699
【経常支出】	7,565,198
事業費(助成事業)	3,931,933
管理費	3,633,265
経常収支差額	671,228
【その他資金支出】	-4,060
当期収支差額	675,288
前期繰越収支差額	16,125,317
次期繰越収支差額	16,800,605
< 正味財産増減の部 >	
【正味財産増加の部】	691,642
【正味財産減少の部】	80,000
当期正味財産増加額	611,642
前期繰越正味財産額	41,488,137
当期正味財産合計	42,099,779

平成 21 年度事業計画並びに予算計画

助成事業は総額 500 万円で実施する予定です。そのうち 200 万円は、高野山真言宗からの寄付に基づく福祉分野限定の特定枠とします。(P3 参照)

設立 10 周年を記念して、講演会やファンドレイジングパーティーの開催を予定しています。また、これまでの活動の検証とこれからのビジョンづくりのための

ワークショップを実施します。(P3 参照)

平成 21 年度事業計画(概要)

- 1 寄付受入・募金活動
 - ア) 直接寄付(指定寄付、冠基金等)
 - イ) イベント募金(ぼたんの会、こうべ: ウォーク等)
 - ウ) 職域募金(あじさい基金)
 - エ) 協働企画寄付システム(リサイクル寄付事業等)
- 2 助成事業
 - ア) 本体助成事業
 - イ) はぁ〜とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」支援事業(= 受託事業)
- 3 10 周年記念事業
 - ア) 検証及びビジョン検討委員会
 - イ) 記念講演会
 - ウ) 記念ファンドレイジングパーティー
- 4 運営管理業務
 - ア) 広報・情報発信(ホームページ、ニュースレター等)
 - イ) 文書管理(定款改訂・規程類策定)
 - ウ) ネットワーク活動・スタッフ研修
 - エ) 認定 NPO 法人格取得

平成 21 年度収支予算(概要)

【経常収入】	12,160,000
会費収入	1,240,000
事業収入	3,080,000
寄付金・募金収入	4,680,000
その他の収入	160,000
基本財産より繰入金	3,000,000
【経常支出】	12,160,000
事業費	8,985,000
(うち助成事業費)	5,180,000
(うち受託事業費)	810,000
(うち周年事業費)	2,995,000
管理費等	3,175,000
経常収支差額	0

基本財産取り崩しについて

10 周年記念事業経費として、基本財産より 300 万円を取り崩します。但し、ファンドレイジングにつとめ年度末の剰余金は基本財産へ繰戻します。

しみる基金こうべ・10周年記念事業のご紹介

2000年1月にNPO法人として認証を受け設立してから、当基金も今年度で丸10年の節目の年を迎えました。これもひとえにこれまでの皆様方のあたたかいご支援・ご協力・ご鞭撻の賜物とあらためて感謝申し上げます。

昨年度から理事会を中心に10周年を記念して行なう事業について協議を重ねた結果、以下の3つの事業を行なうことになりました。なお、詳細は決まり次第あらためてご案内いたします。

ア) 検証及びビジョン検討委員会

これまでの10年間の活動を検証し、それに基づきこれからの10年間に向けてのビジョンを策定します。具体的には、以下のことを実施します。

- ・これまでの実績調査(6~7月)
- ・関係者・助成先等へのアンケート調査・インタビュー(8月)
- ・関係者によるワークショップ(7~10月)
- ・外部意見集約のためのミニ・シンポジウム(11月頃)
- ・報告書の作成(12~2月)
- ・報告書のご披露

イ) 記念講演会

ゲストスピーカーの講演を通じて、当基金がめざすべき新しい「市民社会」像や寄付の文化についてメッセージ発信することを目的とします。

現在調整中のため、正式に決まり次第ご案内します。

ウ) 記念ファンディングパーティー

これまでの10年にお世話になった方々や、支援してきた市民団体の皆さんに一同に会していただき、楽しいひと時を過ごしていただきます。2010年2月開催予定。

平成21年度しみる基金こうべ・助成事業のご案内

しみる基金こうべの助成事業が今年も始まります。地域の中で様々な障壁に立ち向かいながらも、社会的課題の解決に自律的に取り組んでいこうとされる市民活動の芽生えを、市民自らの手でお互いに支えあい大切に育てていこうという「草の根」支援が当基金の精神です。

これまでの10年間で、延べ99団体に累計総額3,700万円以上の助成金を交付してきました。この財源は、市民一人ひとりからの暖かいお志によるもので、助成先選考にあたっては市民目線での審査を実施してきました。また、これまでに助成を受けられた市民活動団体は、今では地域になくてはならない支えあいの担い手として活躍されています。

今年は当基金の10周年を記念して助成総額500万円を予定しています。また、申請書を作成されるにあたっての個別相談会(要予約)を今年よりはじめます。概要は以下の通りですが、詳細は応募要項(「助成のしおり」)がございますので、ご連絡頂ければご送付します。また、当基金のホームページからもダウンロードできるようにしていますのでご活用下さい。応募要項をご熟読いただいた上で、ご応募いただきますようよろしくお願い申し上げます。

概要

助成額:1団体あたり事業費総額の4分の3以内かつ上限50万円。(特に事業分野・使用用途の限定のない一般枠(総額250万円)と高野山真言宗からの寄付による福祉分野限定の特定枠(総額200万円)があります。また、申請額が10万円以下の場合は、別途少額枠(総額50万円)が設定されています。)

選考方法:原則として、書類審査・ヒアリング調査の上、公開審査会でのプレゼンテーションにより決定します。(少額枠は書類審査のみ。)

助成対象:神戸市及びその周辺地域に住所を有する非営利団体(法人格の有無は問いません)

スケジュール

平成21年7月上旬:応募要項公表

7月14日~8月25日:個別相談会(原則火・木のみ)

7月21日~8月31日:応募申請受付期間

9月14日:書類審査

9月下旬~10月上旬:ヒアリング調査

10月31日:公開審査会

11月上旬:覚書締結・助成金交付

平成21年10月1日~平成22年9月30日

:助成事業実施期間・中間ヒアリング

平成22年10月末:最終報告書提出

11月頃:助成事業成果報告会

夜会・ぼたんの会 vol.7 Final



2009年5月21日(木)18:30から北野ガーデンにて、今年で7回目の「夜会・ぼたんの会」を開催しました。

今回は、ゴスペル歌手の新井深江さん、ソプラノ歌手の飯田美奈子さんや南インド古典舞踏のナオコ・ルクミニーさんらをゲストに迎えて、200名ほどの方々に参会いただき、お洒落な一夜をゆったりと楽しんでいただきました。今年は新型インフルエンザ騒ぎの中、無事に終えることができました。関係者の皆様方のご協力にあらかじめ感謝申し上げます。

なお、今回も収益の一部は、ぼたんの会実行委員会を構成する各団体を通じて、市民活動やボランティア活動を支える資金として活用されます。また、当日の様様



は1・17ブロードバンドさんのご協力で、下記 URL よりインターネットを通じてご覧になれます。

1・17ブロードバンド <http://www.hyogo117tv.jp/>

今回を持ちまして、これまでの形式による「夜会」は最終回と致します。呼びかけ人の皆様をはじめ、これまでに出演いただいた方々、そして何よりもこれまでご参会いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。この7年間の智恵と協働の結晶を発展的に継承し、またいつの日にか新しい形式でお目にかかれるように、関係者一同鋭意新企画を練りたいと考えています。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。本当に長い間ありがとうございました。

しみん基金・K O B E の活動報告(2009年4月～6月)

【イベント・講演・研究会他】

4月18日 (特活)市民活動フォーラムみのお主催

市民活動応援ファンド記念フォーラム「市民の寄付文化を考える」 江口がパネル出演

4月22日 KEC アドバイザー派遣事業・第1回研究会

4月30日 KNN 研究会 @箕面市民活動センター

5月7日 KEC アドバイザー派遣事業・第2回研究会

5月21日 **夜会・ぼたんの会 Vol.7 @北野ガーデン**

主催:ぼたんの会実行委員会 (P4参照)

5月26日 タイズ財団ドラモンド・パイク氏講演会

@関西学院大学 当基金は協力団体として参画

6月19日 はぁ～とふるふぁんど「ひょうごボランティアあしすと」

支援金贈呈式 @クラウンプラザ神戸

6月25日 日本ファンドレイジング協会総会 @東京

江口が出席

【会議等】

4月20日 四役運営会議

平成20年度事業報告書、平成21年度事業計画・予算計画(案)、審査員選任 などについて協議

4月28日 会計監査 (佐藤、森田監事)

4月28日 **平成21年度第1回理事会**

平成21年度定時総会に付議する事項、審査員選任について審議

5月27日 **平成21年度定時総会** (詳しくはP2参照)

6月29日 四役運営会議

10周年記念事業、助成事業等について協議

「あじさい基金」からの寄付金贈呈式のご報告

6月30日(火)に神戸市役所「協働と参画のプラットフォーム」にて、神戸市職員有志でつくられた「あじさい基金・しみん基金 K O B E を支える会」より寄付金(32万円)の贈呈式が行なわれました。これは、毎月1口200円を給与から天引きして積み立てる職域募金のひとつで、官公庁としては全国的にも珍しい取り組みです。温かいお志に心より感謝申し上げます。





コラム・市民社会を支えるお金の流れを考える(5)

しみん基金・K O B E 事務局長 江口 聡

前月号では、標題について市民として求められていることを考えるにあたって、「安心社会」から「信頼社会」への意識の変革の重要性について言及しました。今月号では、「信頼社会」のベースとして必要不可欠なひとり一人の「使命」を相互に尊重しあい「共助」の精神で「公」を実現する場として豊かな関係性を内包した「コミュニティ」と、それを支える自己の「使命」の表現としての「寄付」「ボランティア」の大切さについて考えていきます。

お金の流れの中央集権化

その前に現代社会におけるお金の流れの概要を確認しておきたいと思います。私たちの資産の多くは、将来に備えて少しでも安心して有利に運用されるように、都銀や郵貯などの金融機関に預貯金されています。各地域で集められたそれらのお金は中央でまとめられ、その多くはより有利な利回りを求めてグローバルな金融システムの中へ投入されています。格差社会と呼ばれているこの時代に実はお金はだぶついでいて、それら投機マネーと呼ばれるものが世の中に流通しているお金の中の98%を占め、残りの2%しか実体経済の中で流通していないと言われています。そして、それら投機マネーのうごめきが昨秋からの金融危機などを生む一方で、私たちの身の回りの生活社会を良くするためのお金の流れは非常に細ってきているのです。確かにこのプロセス自体の問題は大きいのですが、一方その始点のひとつにはひとり一人の市民が「安心」を求めるが故の貯蓄行動があるわけです。

「信頼」と「コミュニティ」

どうしてこのような行動に駆られるかという、特に東西冷戦構造が崩壊し経済社会のグローバル化が進んできた90年代以降、ひとり一人の市民の身の回りの生活社会における関係性が急速に希薄になっていき、強く不安を感じるようになったためだろうと思います。しかしながら、お金の流れの中央集権化で見えてきたように、安心を求めての行動が実はますます不安をあおる形でフィードバックされているという構造が出来上がってしまっているのです。そしてこのような構造は、お金の流れを巡る場面ばかりでなく様々な生活社会の中にみられ、私たちひとり一人が

このような空気の中に縛り付けられてしまっているのです。

どのようにすれば、このような構造から脱却できるのでしょうか？確かに社会システムの問題として解決する必要があるのですが、一方でひとり一人の市民としてできることは、そのような空気から離れたところで自分自身の内なる声に静かに耳を傾けて生きる意味を問い直し、そこから自分自身の「使命」を見出し、同様の「使命」を抱いている人たち同士が慈悲心と智恵を發揮し、「信頼」をベースに緩やかにつながり、社会へ向けて行動すること、ではないだろうかと思っています。そして、各々の「使命」とその差異を相互に尊重しあいながら、「共助」の精神で社会的な課題に取り組む組織として NPO・NGO 等の市民活動があるのだと思います。

企業は市場経済の一層のグローバル化の中ですます効率的で利益の上がる事業にその行動を絞り込まざるをえないでしょう。また、行政は過剰な財政赤字を抱え込み、これまでのような豊富な社会サービスを提供できなくなっていくでしょう。そうした中で、社会的な課題の解決を必要とする領野は広がっていき、市民活動の重要性は増していくでしょう。そしてそれには、慈悲心と智恵に基づく「使命」を相互に尊重しあうという「信頼」と、「官」にはできない「公」を実現する場として豊かな関係性を内包した自律的な新しい「コミュニティ」の創出が求められていることを、ひとり一人が気づいていくことが大切だと思います。

「使命」の表現としての「寄付」

ひとり一人の存在には、おのおの独自の「使命」が必ずあります。そして「信頼」と「コミュニティ」の創出のためには、自己の「使命」を表現することが大切です。それを体を動かして表現することが「ボランティア」であり、お金に託して表現することが「寄付」だと私は考えています。「寄付」を通じて身の回りの生活社会を良くするためにお金が流れはじめると、市民活動の本物のチカラが發揮され、お金では換えがたい関係性の豊饒という幸せと「寄付」「ボランティア」の尊厳が大切にされる「市民社会」が実現していくでしょう。「寄付」は、「市民社会」実現のための見返りを求めない未来に向けての投資なのです。(つづく)

< リサイクル寄付のお問い合わせ & ご協力方法 >

古着: オレンジスリフティ TEL 078-858-7090
〒657-0027 神戸市灘区永手町 3-1-208
オレンジスリフティ 六甲店

- ・上記ショップへ持参または宅配便にて送付してください。
- ・送付の際は、メモにて「しみん基金こうべ リサイクル寄付」とご記入の上、送料は送り主様にてご負担ください。
- ・お洗濯やクリーニングなど、一般的な処置を済ませていただいた上で、あまりに汚れているものや消えないしみのついているものは除いてください。再販売が可能なものと考えていただければ大丈夫です。

家電・音楽機器・パソコン等の電子機器:
(株)こうべリサイクルセンター リサイクル寄付事業部
TEL 078-303-6201
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 1-1-14

- ・上記お問い合わせ先へお電話下さい。「リサイクル寄付」とお伝えください。
- ・お電話にて、商品がリサイクル品として再販可能かどうか確認させていただきます。
- ・再販可能と判断された場合は、上記のあて先まで宅配便にてご送付下さい。(「リサイクル寄付」と明記ください。送料はご負担いただきますようお願いいたします。)

14 年目のひとり言 ～夜会・ぼたんの会～

2003 年に始まった「夜会・ぼたんの会」は 7 回目の本年をもって、一応のピリオドを打った。おしゃべりな雰囲気の中、食事や音楽等を楽しみながら、市民活動へのファンドレイジングを行うという、当時(現在でも?)としては画期的な試みであった。ぼたんの会は 10 数団体の市民活動団体から構成される実行委員会であり、その趣旨は、神戸を愛する多くの皆さんが、少しずつの善意を持ち寄って、楽しく、豊かに、ひと時をともに過ごしなが、震災後に芽生えた、支えあいの心や、繋がっていく喜びを確認し、ボランティア活動への理解と支援への輪を広げる機会とし、NPO/NGO が協働し、事業遂行のノウハウを学び、その結果として活動のための財源を獲得することにある。

このプランを発案され現在でも中心的役割を担って下さっているのが、アートサポートセンター神戸(ギャラリー島田)の島田誠さんである。島田さんにはしみん基金・こうべの審査員も務めていただいている。その島田さんの奥様が先月お亡くなりになられた。心よりご冥福をお祈りするとともに、ご夫妻の約束事であった新たな文化、芸術の為の基金を創設されると聞き、神戸を本当に愛しておられるその心と行動に心底、感動している。合掌

しみん基金・K O B E 専務理事 瀬戸口仁三郎

会員数とご寄付のご報告

正会員	個人 39 名	団体 4 名
賛助会員	個人 61 名	団体 10 名

(2009 年 6 月末現在)

寄付・募金合計金額 2,938,000 円

寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

高野山真言宗、新野幸次郎、佐々木美智代、村井雅清、黒田裕子、島田誠、ぼたんの会実行委員会、江口聰、あじさい基金

(2009 年 4 月～6 月)

高野山真言宗から 2 年連続でご寄付を頂きました。
また、定額給付金からの寄付もございました。
皆様の篤いお志に心より御礼申し上げます。

【お詫び】

4 月発行の前月号(第 18 号)の「新理事のご紹介」欄にて、石本章宏理事のお名前が抜けていました。この場を借りて訂正の上、謹んでお詫び申し上げます。

次号の予告(2009 年 11 月頃発行予定)

・平成 21 年度しみん基金 K O B E 助成事業の結果報告など

「しみん基金・K O B E」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000 円
団体会員 年間 10,000 円

お申し込みは電話・FAX・メールなどで、お名前・ご住所・電話番号をお知らせください。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通 7965892

みなと銀行 本店営業部 普通 1597921

近畿ろうきん 神戸支店 普通 4161854

郵便振替 00990-5-157334

口座名義 「しみん基金・こうべ」



あとがき

「自然の手伝いをして、その恵みを分けてもらう。…自分は自然の手伝いなんだって、人間が心から思えるかどうか。…人間の未来はそこにかかっていると私は思う。」石川拓治さん著「奇跡のリンゴ」からの引用です。「自然」を「近隣」や「知人」などに置き換えて読んでみると、「ボランティア」や「コミュニティ」の本質として読めるように思います。お金ではなく、豊かな関係性にこそ本当の幸せがあると思えるような時代にしていきたいものです。

(え)